WESTUNION
第423号
２０２４年９月１７日

ＪＲ西労組 よなご

west japan railway trade union - YONAGO

西日本旅客鉄道労働組合
米子地方本部
発行責任者　大川　達也
編集責任者　平新　直大

米子地本第３４回定期大会

創造・参加・実践

安全を基礎に絆を強め未来を切り拓こう！

新年度の新たな運動方針を確立!!

米子地方本部は8月26日(月)に米子市文化ホール「メインホール」にて米子地方本部第34回定期大会を開催した。本大会も午前午後の一日開催とし総勢90名が参加した。

来賓には両県連合の会長をはじめ、先の衆議院議員補欠選挙を勝利した立憲民主党の亀井亜紀子氏や湯原俊二氏、組織内議員の米子市議会議員の中田利幸氏、その他にも関係各所から多くの来賓にご臨席いただき祝辞を承った。また、中央本部からは羽野書記長、杉野賃金対策部長、尾﨑情宣文化レク部長にも出席いただいた。

大会議長団には、鳥取支部より浮田代議員、石見支部より西上代議員が選出され、経過報告、決算報告、運動方針案及び予算案が提起された後、質疑応答では13名の代議員から39項目に亘って、安全・組織・業務課題等についての発言があった。発言に対しては地本の各担当部長と中央本部からの答弁が行われ、亀山書記長の総括答弁が行われ後に、満場一致で採択された。その後、久保田青年女性委員長から大会宣言が発せられ、最後に大川委員長の団結ガンバローで閉会となった。

大川執行委員長 挨拶（要旨）

①一点目、安全の確立について
JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027の実践から2年目を迎えているが、2名の働く仲間のかけがえのない命を失ってしまった。加えて、死亡には至らないまでも、感電・墜落・待避不良などの危険事象も相次いで発生している。決められたルールを超えた労働環境となっていないのか労働組合としてチェックしていく必要がある。今年度は、分会単位の安全検証アンケートを実施し、現計画の進捗や職場課題などの実態把握に努めていく。

②組織の充実・強化の取り組みについて
現在、米子地本における組織率は約94％、現職のみでは99％以上の組織率となり、1つの労働組合でまとまる見通しも残り数年となった。一方、新規・社会人採用者に対する労働組合への加入行動で難航するケースが発生していると報告を受けている。環境が変化し続けているが、働く者の思いや悩み、そして苦労を真に受け止めるのは労働組合であると信じており、その課題を解決できる組織であるかどうかは役員をはじめ組合員一人ひとりにかかっている。支えあい、助け合い、励まし合うことができる組織でなければならないと確信している。引き続きの組織強化に向けた取り組みの推進を要請する。

③春闘について
2024春闘では、長年の課題であった作業責任者手当の改善をはじめ、予想を大きく上回る手当の改善を勝ち取ることが出来た。2025春闘に向けて、何よりもベースアップに重きをおきながらも、米子地本のもう一つの大きな課題であるエリア手当の課題を解決するため皆さんと認識を統一しておきたい。来月から全組合員を対象に実施する賃金実態調査で検証を行うことが必要と考えており、100％集約に向けた取り組みの展開を要請する。

④ローカル線と政治の取り組みについて
現在の人口減少問題は地方であればあるほど加速しており、地方の交通体系の課題はようやく社会問題化されてきたように感じている。将来に亘って働き続けられる環境の構築には、地域の発展が不可欠であり、JR産業の発展に向けて、引き続き、連合や交運労協を通じた政策提言に努めるとともに、組織内議員や推薦議員のみなさんとの連携を図り、取り組みを進めて行くこととしたい。改めて、組織をあげて推薦候補者の必勝に向け全力で取り組むこととする。

⑤地本費の導入に向けた職場討議について
2016年には約1500名いた組織人員も、現在は1200名と2割も減少し、この間、様々な運動の見直しを行ってきたが、これ以上の見直しは組織力を維持していくことを踏まえれば不可能と判断した。組織運営に対して財政は最も重要な運動の基盤であることから、米子地本として苦渋の判断となるが、将来を見据えた責任ある討議の実践を各機関に要請したい。

連合鳥取　山口会長

湯原衆議院議員

亀井衆議院議員

中国ろうきん
田中副理事長

こくみん共済
松崎理事長

組織内議員
中田米子市議

西上代議員　浮田代議員

中央本部
羽野書記長